瀬戸会館だより
平成２５年6月号
新居浜市瀬戸会館
〒792－0821
新居浜市瀬戸町7－30
E-mail
seto@city.niihama.ehime.jp
TEL０８９７
４１－５８５９
（FAX 兼用）

「人権のつどい日」にひろう

５月１１日(土)は民生委員・児童委員の髙津英正さんによる講演『人を大切にする生き方』を拝聴。髙津さんは「生き方の中で自分は大勢の人に支えてもらった、助けてもらった、愛情をかけてもらったことが、沢山ある。でも、ある年齢になるまでそれが見えなかった。」と話しはじめる。

ある人に「人間の本質」について尋ねると、「人間には動物的本能があり、その本能の中でも自己中心性というのは、一般的にはエゴと言うが、このエゴをもっているのが人間ではないか」。さらに「本能と本質は何か」と尋ねると「人間の本質は仏性だ。良心だ。この人間の本質を伸ばしていく、育てていく、そうすればこの本能的なものは変わってくる」という。

そこで髙津さんは考える。いったい、差別をする本質は何なのか。人間が人間を差別するのであって、時代が差別しているのではない。人間が人間を差別するということにおいては、先程の本能的なところ、人間のエゴの部分だろう。エゴが差別するのなら、エゴをコントロールできたらいいわけで、そのエゴをコントロールするための手法が要るのだろうな、と。

本当に自分を大切にする生き方ができれば、実は自分の目の前の人も、もう二度とない人生を歩んでいるのだから、それはそれは貴重な存在だとわかる。さらに周りの人も大切にしていこうという知恵が育つ。それはそのまま、ほかの人も大切にしていくということになる、と話された。

言葉を選びながら、おだやかな話しぶりのなかにも時には厳しく、時には激しく、人としての生き方を追究して来られた姿がそこにあった。参加者から次のような感想をいただいた。

感　想

特に印象深かったのは、差別の本質は何なのか？それは人間のエゴだとしたところだ。講師は本能と本質を巧みに使い分け、個々が持っている本来の性質を仏性と考え、それを伸ばしていくことによって、本能的なものは善に変わっていくと話された。これまでとは違った切り口で差別の本質をとらえられ、興味深く聞かせていただいた。感謝です。

感　想

今回、高津英正さんの「人を大切にする生き方」と題した講演会に参加しました。今までの様々な人との出会いや自身の経験をもとに、たくさんのお話をしていただきました。その中でも、「感謝を知ることは恩を知ること」という言葉が心に残っています。感謝を知ると恩を感じ、恩を感じればそれに報いようとする。そういうことで人のことを思いやることができるのかな、と改めて思いました。

また、人間の本質（良心）を伸ばし成長させていくと、人間の本能（エゴ）が抑えられていく、ということも心に残りました。

たのしいチャレンジ　こどものつどい

５月１８日(土)、瀬戸児童館で３歳児から小学校３年生までを対象にした「こどものつどい」があった。玄関前の広場ではマイクに向かって声量を競う「大声コンテスト」。見本として先生が「すきだァー！」と叫ぶ。とても迫力あり！続いて小学生男子が「バンザーイ！」とチャレンジするが、その横でお婆ちゃんが「ふだんはもっと大きな声出とるのに」とにっこり。しばらくして「今のところ９２ホーンが最高で～す。お父さんもお母さんも大声出して、ストレスを発散させましょう」とスピーカーが呼びかける。室内ではいろいろユニークな競技が用意されている。割箸であずきをつかむ競技「まめつかみ」は時間３０秒でその数を競う。豆が逃げてむずかしい。「足ぶみ日本一」は２０秒間でどれだけ多く足ぶみができるか、というのだが、これも大変！でも次々とチャレンジして測定係の成果発表に一喜一憂する気持ちが表情にでる。また、会場のあちこちでボランティアの皆さんが競技の運営に大活躍。小学校４年～６年までのジュニアリーダーが８人、新居浜商業高校生が１１人、地域活動クラブのお母さんたちはポップコーンづくりなどに忙しかった。閉会式では各競技ごとに表彰されたが、同じ子どもがいくつも優勝メダルを首にかけてもらい、そのたびに大きな拍手。今年も楽しい「こどものつどい」だった。天気もよく、お天道様も応援してくれた。

６月公演
回転木馬
おはなし会
6月5日予定
10:00～11:00
瀬戸児童館

６月の主な行事予定

5日・19日（水）
ー　移動図書館
11日（火）　ー
人権のつどい日
講演「人の権利を護るということ」
講師　社会福祉士
山本　豪さん

２０日（木）
(19:00～21:00)

人権あらかると

同和教育は必要か

角岡伸彦（ノンフィクションライター）

部落問題の担当官庁である総務省が、２０００年に啓発ビデオを制作した。出演は、タレントの司会者と、学者二人および総務省幹部、私の計五人。撮影はシナリオに沿って座談会形式で進められた。途中、司会者がアドリブで「部落問題って、学校で教えるから子どもたちにも差別が広がるのですよね」と発言した。部落問題にリアリティがない人の正直な意見である。私は、だったらなんであなたは啓発ビデオに出演しているのだよ、と思いつつ、「差別があるから、同和教育が必要なのではないですかね。なければ必要ないと思いますよ」と返した。しばらく司会者と私だけのやり取りが続いた。

撮影終了後、シナリオにはないこの会話をぜひとも入れたいと思い、制作を担当した業者にその旨伝えたが、完成した作品を見ると、予想通り見事にカットされていた。「あそこが一番おもしろかったのになあ」と今でも残念に思う。

部落問題を教えるから差別が残るという司会者の考え方――「寝た子を起こすな論」と言う ―― は、地域や年齢を問わず幅広く存在する。教えられなければ部落問題なんか知らなかったし、知らなければ差別のしようがないではないか、と考えるからであろう。知らなければ・・・という考え方には、知る必要性を感じない、もっといえば知りたくないという心理があるのではないだろうか。

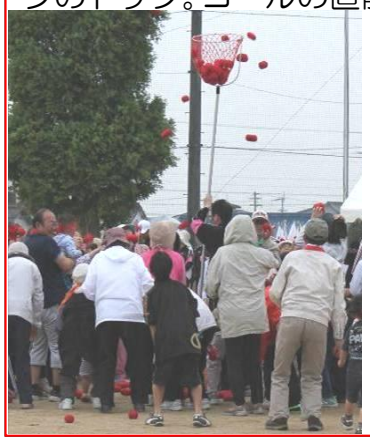
角岡　伸彦『初めての部落問題』（文春新書）より

「静かにこぼさないように」ー余裕の一番！

第４８回泉川校区「町民大運動会」が５月１９日(日)泉川小学校グラウンドで開催された。プログラムの競技開始前にスピーカーから「ラジオ体操第一番」が流れて、参加者全員が自分たちのテントの周囲で体を動かす。

運動会はプログラムにそって始まったものの、予報どおり天気はくずれ、テントの周囲から落ちる水滴が細い線になりはじめた。気温も心なしか下がってきた。でも、テント前を通過するわれらの代表選手にはアツイ声援がとぶ。

やがて本部からの放送で、あと二つの種目を実施して運動会を終了する旨発表された。すると、小学生対象の「パン食い競争」がなくなることから、「小学生はパンを取りに本部席の後ろに集合！」と放送があり、可愛い歓声が上がる。次いで残された種目のひとつ「静かにこぼさないように」が始まる。この競技は、小さくて底の浅いざるにボールを載せ、長いひもで引っぱって走るもので、コツが要る。それが瀬戸・寿チームは順調でダントツのトップ。ゴールの直前でしばらくの間他チームを待つ余裕！空色のテントの中では、手をとりあって歓声にわいた。



第１回　来観会（きてみんかい）のようす

５月１６日（木）１９時から瀬戸会館において来観会が開催され、何と４名の皆さんが来られました。夏まつり、自治会、太鼓、昭和３０年代ごろの新居浜駅には人で溢れかえっていた等々、人数は少なくても話題は豊富で２時間がアッという間でした。大変楽しい会になりました。この会は、悩みや日常感じている困ったこととか、うれしかった話など何でもしゃべくって、ストレスも発散、１９時から２１時までの間、来れる時間帯で構いません。毎月第三木曜日に開催していますので、何方でも気軽に参加してみてください。次回６月は２０日です。

瀬戸・寿連合自治会総会開催される！

盛川連合自治会長続投

去る 4 月 29 日（月）19 時から瀬戸会館において、新しく自治会長になられる方、継続の方々を含めての連合自治会総会が開催されました。事業報告から会計監査報告まで各々承認されたほか、平成 25 年度は、恒例の事業の推進は勿論のこと、懸案になりつつある自治会再編に向けて、今後具体的に検討していくことになりました。続投が決まった盛川連合自治会長から「昨年よりも今年とさらに前進するご支援をよろしくお願いします。」とのこと。なお、定例の自治会長会は毎月 28 日に行う予定です。

いろんな情報を満載

移動図書館―「青い鳥号」

月に2回水曜日の午後、おきまりの緑の布バッグをさげて瀬戸会館に人が集まる。徒歩、自転車でとさまざま。新居浜市の移動図書館「青い鳥号」の到着を待っている。

「青い鳥号」の書棚には、日常生活に有用な情報や趣味に役立つもの、例えば洋裁、手芸、料理、そのほか自然科学のナゾに迫るものも見える。そして「コレステロールが高い人のためのレシピ」、「血糖値」ほか医学や病気に関するものも並ぶ。「るるぶ」や「まっぷるマガジン」など国内旅行や海外旅行の案内情報誌もある。いま人気のある作家は東野圭吾、予約が殺到しているのは百田尚樹の『海賊と呼ばれた男』だとか。これは書店員が選ぶ「本屋大賞」を受けた本でもある。

「青い鳥号」は市内33ヶ所を巡回しているが、瀬戸会館には月2回水曜日（14:00～14:40）に来ている。本や雑誌の貸し出しは、1 回 10 冊まで、期間は 2 週間。本を入れる緑のバッグも貸してくれる。希望すればビデオ・CD・DVDも2点まで借りられるとか。寒いとき暑いとき、雨のときと、時々お天気はいじわるをするが、運転手さんと二人の女性担当者はやさしく接してくれて、利用者はとてもうれしい。

瀬戸会館にて